

第12回北谷町地域公共交通会議議事録

会議録署名人 岡村悦子

- 1 開催年月日：令和2年12月25日（金）
- 2 会議時刻：14時00分から
- 3 会議場所：北谷町役場 1階 レセプションホール
- 4 出席委員
 - (1) 神山 正勝 北谷町副町長
 - (2) 神谷 大介 琉球大学工学部環境建設工学科准教授
 - (3) 小谷 和史 内閣府沖縄総合事務局運輸部陸上交通課長
 - (4) 齋藤 洋一郎 内閣府沖縄総合事務局運輸部企画室長
 - (5) 川崎 聡 内閣府沖縄総合事務局南部国道事務所副所長
 - (6) 比嘉 喜彦 沖縄県中部土木事務所技術総括
 - (7) 當間 秀規 沖縄県警察沖縄警察署交通対策課長
 - (8) 名嘉山 敬雄 沖縄バス株式会社運輸部業務課長
 - (9) 大岡 純士 株式会社琉球バス交通業務課主任
 - (10) 東江 一成 沖東交通事業協同組合代表理事
 - (11) 慶田 佳春 一般社団法人沖縄県バス協会専務理事
 - (12) 喜屋武 悟 私鉄沖縄県労働組合連合会執行委員長
 - (13) 津波古 修 沖縄県ハイヤー・タクシー協会事務局長
 - (14) 米須 義明 北谷町商工会会長
 - (15) 屋比久 里美 北谷町観光協会会長
 - (16) 徳田 伝 北谷町北前区自治会会長
 - (17) 岡村 悦子 北谷町美浜区自治会会長
- 5 欠席委員
 - (1) 大城 幸和 那覇バス株式会社業務部次長
 - (2) 玉城 清松 北谷町老人クラブ連合会会長
 - (3) 仲宗根 仁志 北谷町自治会長連絡協議会
- 6 事務局
 - (1) 北谷町役場
 - ① 仲松 明 企画財政課長

②眞喜志 康仁 企画財政課企画調整係長

③知念 望 企画財政課主事

(2) 株式会社OPTAGE

①北村 拓也 コンサルタント

7 説明又は意見を求めるために出席した者：なし

8 傍聴人：5名

9 議題

- (1) 北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告
- (2) 本格運行に向けた検討の考え方
- (3) 実証運行分析評価報告
- (4) 令和3年度北谷町コミュニティバス実証運行計画(案)の策定
- (5) 事業者選定方法の検討

10 会議資料

- (1) 次第
- (2) 座席配置図
- (3) 北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告【資料1～7】

11 会議内容

議長：	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>本当に、年が押し迫り、もうあと5日しか残っておりません。このような中で会議を開催するということにつきましては、大変心苦しいところもございました。にもかかわらず、多くの委員の方々のご出席いただきまして、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。</p> <p>先日11月、約1月前に第11回の公共交通会議を行いました。その中でいろんな報告等々もございましたけれども、実はこのコミュニティバスの実証実験が令和3年度までとなっておりまして、残す1年、このままの実証実験でいくのか、新たな展開をした実証実験に移るのかという、今、議論の真最中でございます。そういうことで残された時間も余りないということで、このような時期に開催することにご理解いただきたいと思えます。</p> <p>それでは、議事につきましては、これから座って進めさせていただきたいと思えます。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、本日の議題は5番ありますけれども、1番、2番、3番までは、議題というよりは報告事項となっております。</p> <p>会議に入る前に、まず会議の成立要件について事務局から報告を受けた</p>
-----	---

事務局：	<p>いと思います。 申し上げます。設置要綱第6条第2項により過半数の出席がございますので、会議は成立しております。よろしくお願いいたします。</p>
議長：	<p>ただいま事務局から北谷町地域公共交通会議設置要綱第6条2項の規定により、会議は成立しているという報告がございました。 次に、会議録署名委員を指名させていただきたいと思います。 本日の会議録署名委員は岡村委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p>
議長：	<p>～「異議なし」と言う人あり～ それでは、岡村委員、よろしくお願いいたします。 それでは、早速ですけれども、これより議事に入っていきたいと思いません。 議題の1番目、北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告について説明を求めます。</p>
事務局：	<p>よろしくお祈いします。 まず、議題1の説明の前に、前回会議の概要の振り返りを報告いたします。 前回の会議では、コミュニティバス実証運行事業の現状報告を行い、量の評価、質の評価、それぞれの面における課題というものを皆様と確認させていただき、現行のバス事業に代わり新たな運行形態を検討したい旨を報告いたしました。 新たな運行形態案として、デマンド交通や無償バスといったことについて一度案を提示させていただいて、本日はその検討結果を事務局案としてご提案させていただきたいと考えております。 よろしくお願いいたします。 では、議題についてご説明させていただきます。</p>
	<p>～（1）北谷町コミュニティバス実証運行事業の現状報告の説明～</p>
議長：	<p>ただいまの議題（1）については11回でも報告をしましたが、その追加分ということで、7ページからの追加分の報告がございました。 前回のものでも結構ですので、何かご質疑等ございましたら、お願いしたいと思います。</p>
議長：	<p>～「なし」と言う人あり～ よろしいですか。 それでは次に、議題の2、本格運行に向けた検討の考え方ということで説明をお願いします。</p>
事務局：	<p>議題2と議題3については関連いたしますので、続いてご説明させていただきます。</p>
	<p>～（2）本格運行に向けた検討の考え方、（3）実証運行分析評価報告の説明～</p>
議長：	<p>ただいまは本格運行に向けた検討の考え方と、そして実証運行の分析評価報告、併せて報告、説明いただきました。その中には、一定の方向性も評価報告の中では出されております。 それでは、これから質疑の時間に入りたいと思いますが、ただいまの2</p>

<p>委員：</p>	<p>番、3番について、ご意見、ご質疑がありましたらお願いいたします。 まず1つ、29ページの10年後の不安という話は、一般的に考えて年齢によって違いますよね。20代に聞くのか60代、70代に聞くのか。そこは一切無視して、これで60%と出されているんですけども、年代別だったらどうなるんですか。年代別の集計ぐらいあるのかなと思ったんですが。</p>
<p>事務局：</p>	<p>年代別で取っていますが、ここに出ているデータは全年代集計です。</p>
<p>委員：</p>	<p>であれば、このままいくと北谷町民の6割が移動に不安を抱えているという結果になるので、ちゃんと年代を踏まえた上で、こういう移動支援が必要だという論理に持っていく方がいいと思います。 2点目がデマンドに向かう論理が飛躍し過ぎだなとは思いますが。普通、不満というのは、自分のニーズに対して供給が一致していない、マッチしていないときに現れます。回答者の属性によってもニーズは変わってくるので、もう少し丁寧に話をさせていただいた方がいいと思います。 あと根本的なところで、ロジックツリーで質の評価の高齢者の部分と観光客の部分に対して一切分析メスを入れられていないのはなぜかというところ。 さらに、上の量の評価というほうで、休日は利用者が少ないわけですよね。高齢者の買物とか高齢者の通院という交通弱者の移動支援を確保しようという考え方に立てば、例えば土日祝日をやめるといった検討もできると思うのですが。</p>
<p>事務局：</p>	<p>まず1点目の赤字になっていない部分の分析について、分析を行った上で、今回は皆様にご報告するのに必要なものだけをここに記載しているという部分になっています。今回の議題としては、運行形態を抜本的に変えないと量の評価の抜本的な改善にはつながらないよねということで、この報告書に載せていないものになっています。</p>
<p>委員：</p>	<p>2つ目の、例えば土日祝日のダイヤを削るなり利用者の多いところにシフトするという部分については、昨年度の公共交通会議の分析事業の中でも一度試算をしてみました。改善だけでは目標に達せず、やはり現行のバス事業では難しいというところから、この分析業務に至っています。</p>
<p>委員：</p>	<p>その部分を補ってあげないと、この資料を見てデマンドというふうに言われてしまうと、すごく論理の飛躍があると思うんですね。もう少し丁寧な形で、話をされた方がいいと思います。</p>
<p>議長：</p>	<p>事務局よろしいですか。</p>
<p>委員：</p>	<p>ただいまの件については、報告書をつくる際に解説をしていただきたいと思います。ほかにご意見ありますか。</p>
<p>委員：</p>	<p>22ページの量の評価の中で、年間の維持管理費が2,170万円と記載されていますけれども、今年度は事業費が3,300万円と前のページにありました。この違いをちょっと教えていただきたい。 それから、予約制のデマンドタクシーを導入することでバス停をたくさん設置するというところ。これはバス停ではなくて、乗車場所を多数確保するというところではないかと思っております。 3点目に、デマンドタクシーでもいかに乗合を多くするかという内容の説明が全くないので、この辺は整理していただいたほうがよかったかなというふうに思っております。</p>
<p>事務局：</p>	<p>2番目にご質問いただいた停留所の件について、私たちが言っていた停留所というのが乗降所という意味です。</p>
<p>委員：</p>	<p>停留所というのは乗車場所と記載したほうが良いんじゃないですか。</p>

事務局：	修正します。 続いて、1点目の年間維持費が2,170万円と3,300万円の2つ記載していることについてですが、2,170万円が運行経費であり、運行経費以外のリーフレットの発行などの事業費も全てひくくめたものが3,300万円ということです。
議長：	この2,170万円というのは運行経費という話ですが、いつ時点のですか。
事務局：	過去のものも含めた平均として出しています。
委員：	乗合については、今後デマンドタクシーを導入するということを検討しているということでしょうか。
事務局：	はい。
議長：	ほかにございますか。
委員：	コミュニティバスとデマンドタクシーの両方を残すという選択肢はないんですか。
事務局：	事業経費との関連があり、今の定路線に替わってデマンドの実証実験を行いたいというところですよ。
委員：	コミュニティバスのメリット、デメリット、デマンドタクシーのメリット、デメリットそれぞれ違うと思うので、その効果が比較検証できるように進めていったほうが望ましいと考えております。 また、タクシーとデマンドタクシーがどう違うのかというのは示していたほうが良いんじゃないでしょうか。
事務局：	今の定路線型とデマンドに切り替えたときの効果検証ができるように検討しております。 タクシーの差異化という部分については、この次の議題で説明をいたします。
議長：	デマンドと定路線型については論理的な説明ができるように、事務局よろしくお願ひしたいと思ひます。 ほかにございますか。 ～発言する人なし～
議長：	次に、4番の令和3年度北谷町コミュニティバス実証運行計画案の策定及び事業者選定方法等についても関連をいたしますので、一括して説明をお願ひしたいと思ひます。
	～（4）令和3年度北谷町コミュニティバス実証運行計画（案）の策定、（5）事業者選定方法の検討の説明～
委員：	ただいま説明をいただきました、令和3年度北谷町コミュニティバス実証運行計画案の策定ということで、この中で今後デマンド交通をしたいという提案がございました。5番目の事業者の選定方法につきましては、プロポーザル方式としたいということがございました。 まず初めの区域運行型デマンド交通にしたいという点に関しましてご質問をいただきたいと思ひます。 乗降所の設置箇所については、危険なバス停といった観点もありますので、警察とも調整して判断いただけたら、手続上非常に助かるのかなと思ひております。 既存のバスの改造についてはもっとハードルが高くて、現実的にはちょっとおっしゃるような無理なのかなと。 運賃については、バス事業者、タクシー事業者もそれぞれいらっしゃい

	<p>ますので、その辺の影響も加味しながら考えていただけたらありがたいのかなと。</p> <p>最後に、相乗りタクシー制度というのが、国交省で検討されております。今後は既存のタクシー事業者もこういう営業行為をやる可能性が出てくると、非常に影響をうけますので、バス、タクシーに対する配慮というのでも考えていただきたいです。</p>
議長：	現在の乗合タクシー制度というものはどの程度進んでいるんですか。
委員：	今はタクシーで乗合行為はできません。ですから、4条許可、バス事業者で乗合をやる。特別に許可をあげて運行してもらおうという制度が21条です。
	国交省としては、近い将来、お披露目ができるのかなというふうに思います。
議長：	よろしいですか。では、ただいまのことも頭に入れながら、警察との情報共有など、事務局はよろしくお願ひしたいと思ひます。
	ほかにありましたら。
委員：	停留所50か所と書いてあるんですけども、今現在の乗降所をそのまま使うのか、それとも全く違うところにと考えているのか。
事務局：	今の乗降所をベースとして、不足しているところには追加します。
委員：	収支のシミュレーションとかがつくられるのでしょうか。
事務局：	収入に関していえば、正確にどれだけの収入が得られるのかというシミュレーションは難しいので、現行の運賃収入をベースとして、利便性が向上されることによる運賃収入の増加を考えています。
議長：	ほかにはございますか。
委員：	既存の交通事業者との配慮はお願いしたいと思っております。
	その中でもちょっと心配なのは、運賃設定です。このままデマンド交通にした場合、200円というのは心配がございます。もう少し精査をお願いしたいと思っております。
事務局：	運賃については、既存の事業者への配慮という部分はあるんですが、一方で、今現在利用されている方々の大きな負担を減らしたいという考え方と、あくまで移動の圏域が町内に限った移動であるということで、現行の運賃をそのままの方向でいきたいと考えています。
委員：	現行の運行ルートの横断、例えば北のルートから南のルートに横断するということもあるのですか。
事務局：	北、南というものが全くなくなって、町内全域で移動できると考えています。
議長：	乗降所そのものは、今あるものをベースにやるということですよ。
事務局：	乗降できるポイントは、今の場所に置いて、その移動の仕方を北、南という分類をなしにして、町内全域の移動と考えています。
委員：	運賃の件ですが、今後も北谷町が半永久的に補助をするのか。そうするのであれば、200円でずっと維持できると思ひます。けれども、補助がなくなったときに、本格運行で一般の業者にやってもらおうと考えるのであれば、その辺は考慮する必要があると思ひます。
事務局：	繰り返しになりますが、現在の実証運行期間中については、なるべく現行のそのまま維持していきたい。その中で得られたデータによって、本格運行の際に運賃については改めて事業者の皆様と協議しながら決定するものかなと考えています。
議長：	最終的に福祉政策と絡めて、あるいは町民の利便をどうするかということについては政策的なものも勘案しながら、実証実験期間中にいろいろ検

	<p>討していくということにさせていただければと思います。</p>
委員：	<p>今日提案したデマンド交通に関する実証実験について、この会議で決定することであれば、運賃設定について、区域が広がって 200 円というのはいかななものかという気がしました。</p>
事務局：	<p>現在は運行していない場所に住んでいる方々の移動の利便性や、移動手段の提供ということから、乗降場を設置したいと考えております。現在よりも運行カバー域は確かに拡充されると考えております。</p>
委員：	<p>既存の路線を守りつつ、いかに空白地帯をカバーするかということについてこの場で本当に真剣に議論してほしい。この 200 円という運賃の設定についても、継続を望む町民が出てくる可能性が大いにあります。ですから、実証実験とはいえ、価格の設定についてはもう少し慎重に対応すべきではないかなという気がします。</p>
委員：	<p>行政の立場として、既存事業者への影響が大きいのかなと思っていて、今までなかったところにどこにバス停を設置しますよという議論がない状態で 200 円というのは、やっぱり事業者さんも不安じゃないかなと思います。</p>
委員：	<p>運賃について、例えば他の自治体さんでは、タクシーチケットの配布等を行っているところもあります。それを活用して、通常の運賃は比較的適正な運賃にして、それをお使いくださいというやり方もありますので、参考にしてください。</p>
委員：	<p>次年度の実証に関して、国交省の補助を受ける予定があるかどうか教えてください。</p>
事務局：	<p>国交省の補助に関して、次年度までは一括交付金の活用を検討しておりますので、令和 4 年度の本格運行以降の際に、国交省補助を検討すると考えております。</p>
委員：	<p>一点。令和元年度が先ほど 3,300 万円の事業費ということで、デマンドに関わる経費については、どの程度になるんですか。</p>
事務局：	<p>A 社に関してはほぼ現行と同額ですが、定路線型と違って、別途オペレーター費用が必要となります。なので、オペレーター業務も含めた事業費としては、どうしても現行のバスよりも増額ということになります。</p>
委員：	<p>現行のコミュニティバスで使う事業費よりも多くなる。となると、町負担も増えるという理解でよろしいでしょうか。</p>
事務局：	<p>そうです。</p>
議長：	<p>ただいま議論になりましたのは、バス乗降所の増設について、競合路線のところまで新設するといろいろ課題が出てくるという意見がございましたので、事務局はそのことを念頭に置きながら進めてください。</p> <p>今回の交通会議におきましては、残された実質 1 年に満たない期間で、情報をしっかりと踏まえて、次の本格運行に向けていきたい。今のままの C-BUS の定時路線でいきますと、量的にも質的にも、町民の満足が得られないということで、区域型デマンド方式で検討してみたいということでこの会議にお諮りをしているところです。もしよろしければ、事務局から提案されているとおり、了承させていただきたいと思っておりますけれども、ご意見は。</p>
委員：	<p>これは、運行時間は何時から何時ですか。</p>
事務局：	<p>朝 8 時から夕方 6 時までです。</p>
委員：	<p>平日も休日も全て 360 日で、来年度実験をやり、それを踏まえて令和 4 年度に、今の路線型に戻すとかデマンドで継続するとか、料金を上げるということを検討するという理解でいいですか。</p>

事務局：	はい、そうです。
委員：	分かりました。その上で。来年度の実験の中で、北谷の人の動きであったり、域外への交通ということに対して、どういった足を確保していくのか、どういうモビリティを確保していくのか、ストーリーをもう一回再整理して、自分たちの描く絵というのをもう一度、検討いただけたらと思います。
事務局：	本日いろいろご意見感謝申し上げます。 私たちはこれからも、この公共交通、北谷町の交通というのを継続していきたい。このデマンドにシフトすることで、まずは実数をつかみ、公共交通につないだよ、というデータもしっかり取りたいと思います。
議長：	それでは、いろいろ議論があり、また課題もたくさんいただきました。今日の意見を踏まえまして、しっかりと検討していきたいと思います。本事業につきましては、提案をしております運行形態、地域型デマンド交通で次年度、実証実験をさせていただきたいということで、了承してよろしいでしょうか。 ～「異議なし」と言う人あり～
議長：	大変真摯な意見、真剣な議論の中で、本委員会を閉じることができ、有意義な議論ができたと思っております。 以上をもちまして会議を閉じたいと思っておりますけれども、事務局のほうから連絡もしくはスケジュール等ございましたらお願いします。
事務局：	今年度中1月下旬か2月頃にもう一度交通会議を開催したいと思っておりますので、その際はよろしくお願ひいたします。 それでは、以上で会議を閉じます。
議長：	本当に年末のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。会議を閉じます。 ～終了～